

【会社概要】

- 所在地：津久見市
- 代表者：代表取締役 鳥越繁一
- 従業員数：70名
- 創業：昭和40年
- 売上高：10.2億円
- 事業内容：鮮度保持剤(乾燥剤、脱酸素剤等)の製造・販売

【自社の競争優位性、強み】

- 脱酸素剤等6種類の鮮度保持剤を取り扱い、ワンストップで提供できるメーカーは全国で当社のみ。
 - 顧客商品に最適な鮮度保持剤の選定・提案の際に「美味しさ」に繋がる気付きを加えた試験報告書を発行し、よりきめ細やかな顧客対応を行う。
- ※顧客は個人経営の洋菓子店を中心に全国8千店。

【成長戦略】

- テーマ 「鮮度保持剤の総合メーカーのトップを目指す」
～鮮度保持コンサルティングメーカーのトップへ～
- 定量目標：5年後には売上高15億円達成
従業員数100名
- 成長の方向性
 - ①新工場の建設による生産能力の向上及び衛生面強化
 - ②小型化脱酸素剤開発で顧客ニーズ対応強化
 - ③除菌・消臭効果に優れる津久見の石灰石をフィルターにした微酸性電解水を開発販売し、ペット・介護市場等の新市場開拓

脱酸素剤既存品比70%の
コンパクト化に成功！！



微酸性電解水
アクアサニタースプレー
500ml

地域牽引企業創出事業認定

H26.7認定

株式会社 エイビス

- 所在地：大分市
- 代表者：代表取締役 吉武 俊一
- 従業員数：44名
- 創業：平成9年（16期）
- 売上高：6.8億円※前年比129%
- 今期予想：7.4億円※前年比108%

○事業内容：情報サービス（システム開発・システム導入全般）
【水質等環境検査の分析データ処理に特化した優れた業務効率向上を支援するソフトウェア】

※分析結果のデータ入力から、加工、法基準妥当性チェック、データ蓄積、分析結果報告書発行を、検査機関のニーズに合わせた形でサポートするシステム。水質、大気、作業環境（工場内粉塵等）、簡易専用水道（高架水槽）、食品（残留農薬等）、ダイオキシンなど各分析に対応。

主な顧客：千葉県薬剤師会分析センター、日鐵住金環境、再春館製薬等

【成長戦略】

テーマ「日本全国の環境検査システムの導入シェア50%超 ダントツNo.1を目指す」

※全国の環境検査、食品検査に係る機関への導入目標
 →600機関／約1200機関

○定量目標：5年後までに売上高11億円達成 従業員数80名

○成長の方向性

(注)一般社団法人日本環境測定分析協会会員数等から算出

- ①新「環境検査システム」にリニューアルし、顧客利便性を強化
- ②分析機器メーカーとの提携で、海外市場（中国、韓国）も視野に入れ、新規顧客獲得を図る
- ③主導的かつ顧客に提案ができるエンジニアの育成

【競争優位性】

- 環境検査システム専門の開発・営業チームを備え、分析業務の専門知識を有し、顧客の信頼度が高い(競合他社は専門チームを持たない)
- システム開発における顧客ニーズへの柔軟対応とリーズナブルな価格提案力
- ※一連の書類作成、チェック業務の効率化(1~2名分)

環境検査システムは42都道府県の検査機関へ導入されており、その導入シェアは約25%

目標：50%



【会社概要】

- 所在地：国東市
- 代表者：代表取締役 吉丸 栄市
- 従業員数：75名
- 創業：昭和56年
- 売上高：13.3億円
- 事業内容：冷凍加工野菜（バジル等）、乾燥野菜（フライドオニオン等）製造販売

【成長戦略】

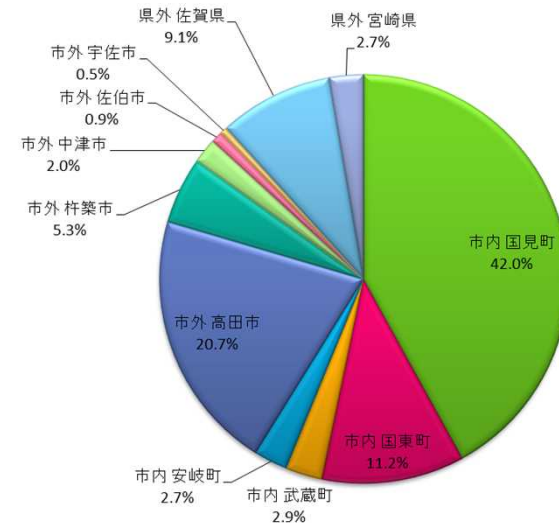
- テーマ「大分県の農産物加工のモデルとなる仕組みを確立、バジル商品のニッチトップを目指す」
- 定量目標：5年後までに売上高18億円達成
従業員数100名
- 成長の方向性
 - ①バジル加工品の開発
 - ②品質の更なる向上を目指した栽培技術研究施設、育苗ハウスの新設
 - ③新工場の建設による生産力向上（150t→300t）
 - ④トレサビリティシステムのクラウド化を実現

【自社の競争優位性、強み】

- ◇生産者、農協・行政と一体となった仕組みにより、高品質、低価格、安全安心の国産バジルで顧客から高い評価を得ている。
 - ・フレッシュ感、本物の味
原料鮮度、摘みたて処理
 - ・ドライ式異物除去機開発により異物混入防止を実現
 - ・生産者への直接指導による品位とトレーサの保証



平成26年度バジル圃場面積



【会社概要】

- 所在地：中津市
- 代表者：代表取締役 島田真一
- 従業員数：42名
- 創業：昭和51年
- 売上高：2.6億円
- 事業内容：光センサ素子製造

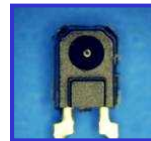
【成長戦略】

- テーマ：「光センサ素子製造のニッチトップ企業を目指す」
- 定量目標：5年後には売上高15億円達成
従業員数71名
- 成長の方向性
 - ①大手メーカーの光素子製造撤退を受け、自社ブランドの光センサ素子製造メーカーとなる
 - ②設備投資による生産能力増強
 - ③光センサ素子新製品(薄型、高耐熱etc)の開発

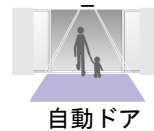
【自社の競争優位性、強み】

- 大手メーカーの品質や技術要求に応えつつ、約40年に渡り光センサ素子製造に携わってきた技術力は国内トップレベル
- 自社ブランドとしての事業展開にあたっては、光センサ素子のユーザーである光センサモジュールメーカーと協業体制を構築

光センサ素子



DVDレコーダー 自動販売機



物体検出

自動ドア



家電製品

光スイッチ



プリンター

光センサ

制御



カメラ



モーター

光通信



赤外通信



ゲーム機

携帯電話